

たてはく

令和5年度 前期特別企画展

みてみて！仏像のポーズ—手足が語る“みほとけと立山”

会期：令和5年7月15日(土)～9月3日(日)

仏像には様々なポーズのものがああります。よくみると、ハンドサインのように手指を曲げているものや、見慣れない物をもっているもの、頬杖をついたり立膝で坐っていたりするものもあり、何だか不思議に思いませんか。

実は、このような仏像のポーズには意味があり、手や足をじっくり観察することで、像を造った人びとの祈りや、像がたどってきた歴史をうかがい知ることができるのです。

本企画展では、阿弥陀如来や不動明王、娑尊、閻魔王といった、立山信仰の世界に登場する仏さまたちの手足に着目。仏さまのポーズを通じて、仏像や仏教にあまり親しみのない方や、お子さんにも楽しんでいただけるよう、やさしくみほとけと立山の関わりを紹介します。

当館おなじみの仏像に加え、「木造不動明王立像」（上市町・日石寺蔵）や、新出資料の「阿弥陀三尊来迎図」（富山市・常楽寺蔵）も初公開します。ちょっと見方を変えることで、新たな仏像の魅力を感じてください。（坂口 舞）



●ギャラリートーク

「仏像の種類、印相、坐勢についての基礎知識
—日本仏像史入門—」

- ・講師：三宮千佳氏（富山大学芸術文化学部 准教授）
- ・日時：8月5日(土) 14：00～15：00
- ・場所：企画展示室

※事前申込不要、企画展観覧券が必要

●企画展担当学芸員による展示解説会

7/15(土)、8/12(土)、8/26(土) いずれも14:00～

- ◆開催場所 立山博物館展示館1階 企画展示室
- ◆開催時間 9：30～17：00（入館は16：30まで）
- ◆観覧料 一般200円、大学生100円 ※高校生以下無料
- ◆会期中の休館日 月曜日（ただし、8/14は開館）、7/18(火)

目次

令和5年度 前期特別企画展

「みてみて！仏像のポーズ—手足が語る“みほとけと立山”」	1
新任あいさつ	2
令和5年度 布橋灌頂会開催記念公開展「布橋灌頂会と芦峯寺」	2
学芸課発 立博雑学	
第9回 新発見！の「立山曼荼羅」	3
ボランティア活動報告 立博ボランティア、今年も頑張っています！	3
夏の催し案内	
この夏、立博で探検しよう！ “たてはく探検隊” 隊員大募集！！	4
地獄博物館へ変身！ 夏の夜の楽しみ方は「ミュージアムdeナイトin芦峯寺」へ！！	4
夏休み特別企画 「たてはくスタンプラリー」開催！	4
夏の大好評イベント！ まんだらナイトウォーク—光りと香りのページェント—	4
編集後記	4





新任あいさつ



学芸課主任 瀧川 織恵

兵庫県加古川市出身の関西人です。加古川市といえば、最近ストリートピアノが駅から撤去されるニュースがありました。空気と水がきれいで穏やかな富山県とは違い、鉄鋼業コンビナートが立ち並ぶ、治安の荒ぶる郊外で育ちました。大学で美術の道に進み絵画を専門的に学んだ後は、地元兵庫の県立美術館や、神奈川県相模原市のアートセンターで美術教育に携わる職務を務めました。その後、富山県美術館に就職し、富山に来てから早7年が経とうとしています。コロナ禍以降、登山に興味を持つようになり、今ではすっかり立山の魅力に惹かれ日々山のことを思いながら暮らしております。富山県の自然や歴史、文化を美的な観点から読み解き、県内外の方々にお伝えできるよう頑張りますので、よろしくお願いいたします。



施設管理課長 長井 秀年

施設管理課長を拝命した長井秀年です。休日はコーヒーを片手に、イヤホンで音楽（クラシックが多い）を聞き、新聞を読んでリラックスしています。山岳系のジョギング（コロナ以前からマスク走、リュックで負荷）が好きです。平地系は疲れるのに時間がかかり飽きるので苦手です。体内活性酸素の増加による老化の進行を気かけながら、いつでもスタートダッシュできるよう準備しておきたいと思っております。これからもどうぞよろしくお願いいたします。



まんだら遊苑受付 先祖 紀子

4月からまんだら遊苑のお仕事をさせていただいています。覚えることもたくさんあり、従業員の皆さんに教えてもらって、ご迷惑をかけない様にがんばります。すごく広くて立派な施設で、たくさんのお客様が拝観されると聞いています。数年前迄、対岸の極楽坂に住んでいました。以前1度くらいしか観覧していません。今、改めて近くに自然豊かで面白い施設があったのだと思い知りました。立山の奥深さにも感動しました。日々学びながら、お客様が楽しく帰路につかれることを願い、仕事に励みたいと思っております。よろしくお願いいたします。



学芸課（会計年度職員） 坂林 樹

銀行員から富山第一高校の教員を経て、大阪の小学校、その後企業団地の運営に携わってきました。幼いころから立山連峰に見守られ育まれて、今日まで生かされてきました。立博の皆様の仲間に入れていただき、嬉しさと同時に責任も痛感しています。宗教史を主に勉強してきましたが、一方で甲子園をめざす高校球児の活躍が未だに気になる日々です。これまでの経験が皆様のお役に立つことができれば光栄です。



令和5年度 布橋灌頂会開催記念公開展



「布橋灌頂会と芦峯寺」

会期：令和5年8月22日（火）～10月1日（日）

芦峯寺集落では、江戸時代、死後、立山山中にある血の池地獄に堕ちると信じられていた女性たちを救うべく、閻魔堂・布橋・嬬堂を舞台にして「布橋灌頂会」が行われていました。女人禁制の立山は、「女性を救う山」でもあったのです。

本年9月24日（日）に「布橋灌頂会」が開催されるのにあたり、立山博物館でも布橋灌頂会開催記念公開展「布橋灌頂会と芦峯寺」と題して、江戸時代の布橋灌頂会の様子や芦峯寺宿坊家の活動などについて紹介する展示会を開催いたします。ぜひ、「布橋灌頂会」とあわせてご覧ください。（細木ひとみ）

◆会場 展示館2階 常設展示室（一部）

◆担当学芸員展示解説会 9月2日（土）、9日（土）、23日（土・祝）、24日（日）
いずれも14：00～



「立山曼荼羅」日光坊A本
（個人蔵〔芦峯寺日光坊旧蔵〕）





学芸課 発

立博雑学



学芸課によるリレー形式のコラムです。立山や立博についての蘊蓄や魅力を、雑学としてお伝えします。

第9回 新発見！の「立山曼荼羅」

令和5年2月、京都市にある古美術商の目録に「立山曼荼羅」と記された掛軸が出品されているとの情報提供があり、現地にて実見しました。本件資料には「越中国立山三所禅定」と記されており、これまでに確認されてきたいくつかの立山曼荼羅と同様に、立山での禅定登拝に関わった者が木版立山登山案内図を原図にして制作したものと考えられます。そして、大きな特徴として以下のことがあげられます。

- (1) 現在確認している「立山曼荼羅」52点中、7点（中嶋家本、志鷹家本、立山博物館B本、立山博物館C本、立山博物館E本、立山博物館G本、飯野家本）は木版立山登山案内図（以下、山絵図）の構図を参考にして描かれたものとみられており、そのうち飯野家本（個人蔵）以外の6点は岩嶺寺衆徒が発行した山絵図を原図としている。本件資料も、岩嶺寺（立山寺）境内を詳細に描いており、「越中国立山三所禅定」の文言に岩嶺寺の山絵図で見られる文言が記されていることから、岩嶺寺衆徒発行の山絵図の構図を参考にして描いたものと考えられる。
- (2) 岩嶺寺衆徒発行の山絵図の構図を参考にして描かれた上記6点は県外で発見・所蔵されたもので、志鷹家本（個人蔵）は天保期に京都の小松谷御坊正林寺の什物であり、立山博物館C本（当館蔵）は京都市内の古書店より購入したものである。また、中嶋家本（個人蔵）は滋賀県東近江市の中嶋氏が古美術商より購入し、立山博物館E本（当館蔵）には元治2年（1865）に摂津国嶋下郡坪井村（現在の大阪府摂津市）の村田廣秀が写したものだという墨書がある。つまり、6点中4点が京都やその周辺で発見されている。
- (3) 芦嶺寺集落に通常描かれる「嬬堂」や「有頼堂」、「鎮守堂」がなく、「帝釈天」を大きく描いた周囲には他の立山曼荼羅では描かれていない堂舎が詳細に描かれている。岩嶺寺集落も同様で、堂舎の名称は他では記されていない名称が記されている。
- (4) 52点の立山曼荼羅には描かれていない「十六善神の堂」や「中室堂」を描くなど、他の資料とは異なる特徴（図柄表現や名称表記）が多数ある。また、芦嶺寺の宿坊を「二十四ヶ寺」、千手堂を「千重堂」、獅子が鼻岩屋を「猪々岩屋」などと誤記したとみられる箇所がいくつかある。これらのことから、本件資料の制作に芦嶺寺や岩嶺寺の宿坊家関わっていないことが考えられる。



(本紙：縦134.8×横62.4cm)

こういった資料の特徴を鑑みて、この「越中国立山三所禅定」を新たな「立山曼荼羅」として購入しました。名称を「立山曼荼羅」立山博物館日本とし、今後は立山博物館での展示のみならず、立山曼荼羅の研究にも役立てていくつもりです。（細木ひとみ）

「立山曼荼羅」立山博物館日本の購入を記念して、令和5年7月4日(火)より8月20日(日)まで展示館2階で特別公開いたします。ぜひこの機会にご覧ください。

ボランティア
活動報告

立博ボランティア、今年も頑張っています！

- 4月15日(土)、ボランティア総会を芦嶺公民館で開催し、佐伯照代会長の進行のもと、教養講座の充実、ボランティア募集についてなど、活発な意見がかわされました（参加者20名）。また、総会後には第1回教養講座として、古川知明氏（富山石文化研究所所長）を講師にお迎えして、「芦嶺寺の石造物巡り」【写真】を行いました。石材や石工、彫られた言葉の意味などのお話を伺い、参加者は奥深い石の世界に引き込まれていました。
- 4月23日(日)の午前中には、毎年恒例の教算坊の池掃除を行いました。池の水を抜いて泥や落葉を掻き出し、池底や石積みなどを隅々まで磨きました。
- 5月3日(水・祝)、5日(金・祝)、6日(土)の3日間、ボランティア有志による「立山博物館コンシェルジュ」を実施し、歴史と風情ある芦嶺寺集落を楽しく会話しながら参加者を案内しました。天気にも恵まれ、県内外、親子連れなど、のべ58名もの利用者があり盛況でした。（石崎康弘）



第1回教養講座「芦嶺寺の石造物巡り」





夏の催し案内

イベントの詳細は
博物館まで
お問合せください!

この夏、立博で探検しよう!

“たてはく探検隊” 隊員大募集!!

夏休みの恒例イベント「たてはく探検隊」の隊員を募集します。ゲームやクイズにチャレンジしながら、たてはくを探検し、素敵なお宝をゲットしよう! 立山曼荼羅の絵解きや、えんま様のお話、ミニ布橋灌頂会など、盛りだくさんな内容で、立山の自然や歴史について楽しく体験しながら学ぶことができます。ちびっこたちの参加を心よりお待ちしております。



- ◎日時 7月29日(土) 9:30~12:30
- ◎会場 展示館、教算坊、閻魔堂ほか
- ◎参加費 無料(※事前申し込みが必要)
- ◎定員 25名

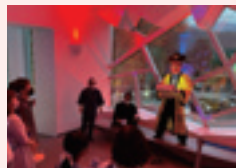


※申し込み方法は、立山博物館ホームページやチラシなどをご覧ください。
※小学生を対象とします。また、原則として保護者同伴でお願いします。参加児童は、損害保険に加入します(保険料は当館で負担します)。

地獄博物館へ変身!

夏の夜は「ミュージアムdeナイトin芦峯寺」へ!!

立山博物館が「地獄博物館」に大変身! インスタ映えも間違いなし! 学芸員による「夏の夜のこわ〜い」絵解きに、閻魔王や天狗による家族で楽しめるクイズやゲームなど、あなたを異世界に誘います!



普段とは一味も二味も違う「夜の立博」にぜひ足を踏み入れてみて下さい。

- ◎日時 8月11日(金・祝)、12日(土)
- ◎時間 18:00~21:00 (入館は20:30まで)
- ◎会場 展示館、教算坊、山岳集古未来館
- ◎観覧料 展示館(常設展)一般300円、(企画展)一般200円
教算坊と山岳集古未来館は無料

令和5年度 文化振興財団主催

夏休み特別企画

「たてはくスタンプラリー」開催!

今年の夏は「立山博物館をじっくり味わってもらおう!」と、各施設を巡る「たてはくスタンプラリー」を開催します。

スタンプを全部集めた方には、たてはくオリジナルグッズをプレゼント。そして、「チャレンジはしたい」けど「全部は集められなかった…」という方にも参加賞をプレゼントします。参加方法など、詳しくは立山博物館ホームページにてご案内します。

立山博物館の新企画です! みなさんの参加をお待ちしております。



- ◎開催期間 7月15日(土)~9月3日(日)
- ◎開催場所 展示館、教算坊、山岳集古未来館、遙望館、まんだら遊苑

夏の大好評イベント!

まんだらナイトウォーク

—光りと香りのページェント—

毎年、まんだら遊苑の夜間開苑として好評を得ている「まんだらナイトウォーク」を今年も開催します。当日の入場方法などについての詳細は、後日立山博物館のホームページで発表します。皆さんお楽しみに。

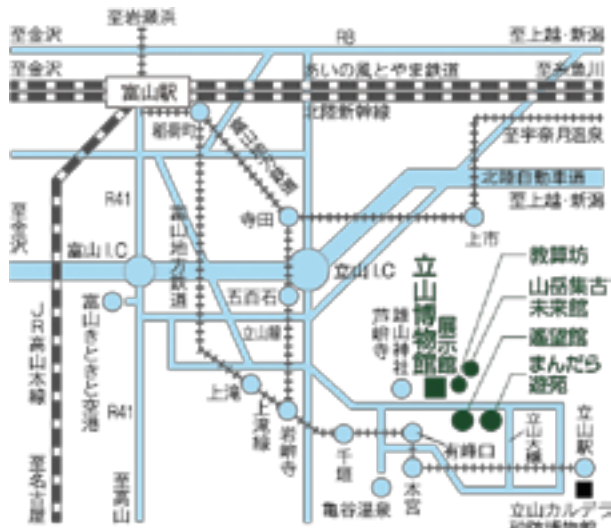


- ◎開催日 9月9日(土)、10日(日)
- ◎時間 18:30~20:30 (入苑は20:00まで)
- ◎会場 まんだら遊苑
- ◎観覧料 一般400円 ※大学生以下、70歳以上は無料

編集後記

4年ぶりに「たてはく」の編集担当になりました。編集で、「やっぱり冊子を作ったりするのが好きなんだな」としみじみとしていたのですが、じっくり考えてみると「いやいや! 立山や立山博物館の魅力発信が好きなんだ!」と再確認しました(笑)。「やさしく、深く、楽しく」伝えたいという気持ちは1ミリも変わっていませんので、今年度もよろしくお願いたします。(H.H)

案内図



- 最寄り駅
富山地方鉄道立山線千垣駅
下車徒歩(約2km)
※日曜を除き町営バス運行
「雄神社前」下車すぐ
- 自家用車で
JR富山駅から 約45分
立山駅(千寿ヶ原)から 約15分
富山インターチェンジから 約35分
立山インターチェンジから 約30分

立山博物館のホームページはこちらから。



人間と自然のかかわり方を学ぶ

富山県[立山博物館]

〒930-1406 富山県中新川郡立山町芦峯寺93-1
TEL 076-481-1216 FAX 076-481-1144

<https://www.pref.toyama.jp/1739/miryokukankou/bunka/bunkazai/home/index.html>

FacebookとTwitterあります!

立山博物館